

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年8月18日 (2011.8.18)

【公表番号】特表2009-529906(P2009-529906A)

【公表日】平成21年8月27日 (2009.8.27)

【年通号数】公開・登録公報2009-034

【出願番号】特願2009-500939(P2009-500939)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 16/46 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 P 37/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/14 (2006.01)

A 6 1 P 31/16 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 16/46 Z N A

C 1 2 N 5/00 B

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/39

A 6 1 P 37/00

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 31/04

A 6 1 K 35/76

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/14

A 6 1 P 31/16

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 25/28

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月30日 (2011.6.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

病原性生物に由来する 1 または 2 以上の抗原ポリペプチド配列と、ヒト I g G 免疫グロブリンの C H 2 定常ドメイン、または前記 C H 2 定常ドメインと同一の生物学的機能を示すそのフラグメントを含み、結合した F c 受容体の内部移行を引き起こすために十分な結合親和性で F c 受容体に結合する、F c 受容体結合ポリペプチドとを含む、融合タンパク質。

【請求項 2】

C H 2 定常ドメインが、サブクラス I g G 1 または I g G 3 のヒト免疫グロブリンに由来する C H 2 ドメインを含む、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 3】

C H 2 定常ドメインが、Kabat データベース配列のヒト I g G 重鎖定常ドメインの位置 2 9 7 に相当する残基において、アスパラギン残基を含む、請求項 1 または 2 に記載の融合タンパク質。

【請求項 4】

位置 2 9 8 のセリン残基が、アラニン残基またはグリシン残基で置換されている、請求項 2 または 3 に記載の融合タンパク質。

【請求項 5】

位置 2 9 5 のグルタミン残基が、アラニン残基で置換されている、請求項 2 ～ 4 のいずれか一項に記載の融合タンパク質。

【請求項 6】

F c 受容体結合ポリペプチドが、配列番号 1 のアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 7】

F c 受容体結合ポリペプチドが、配列番号 2 のアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 8】

F c 受容体結合ポリペプチドと抗原ポリペプチドとが共有結合によって結合している、請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質。

【請求項 9】

F c 受容体結合ポリペプチドと抗原ポリペプチドとが、リンカー部分またはスペーサー配列によって結合している、請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質。

【請求項 10】

抗原ポリペプチドが、2 または 3 以上の抗原ポリペプチドの融合物を含む、請求項 1 ～ 9 のいずれか一項に記載の融合タンパク質。

【請求項 11】

抗原ポリペプチドが、ウイルス性ポリペプチド、細菌性ポリペプチド、真菌性ポリペプチドおよび寄生虫由来のポリペプチドからなる群から選択される、請求項 1 ～ 10 のいずれか一項に記載の融合タンパク質。

【請求項 12】

ウイルス性ポリペプチドが、H I V、B 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルスまたはインフルエンザ A 型ウイルス由来の抗原ポリペプチドである、請求項 11 に記載の融合タンパク質。

【請求項 13】

抗原ポリペプチドが、H I V の t a t および r e v ポリペプチドの融合物を含む、請求項 10 に記載の融合タンパク質。

【請求項 14】

抗原ポリペプチドが、インフルエンザウイルス由来のヘマグルチニンおよびノイラミニダーゼの融合物を含む、請求項 10 に記載の融合タンパク質。

【請求項 15】

抗原ポリペプチドが、結核菌の A g 8 5 / E S A T - 6 または R v 1 0 2 5 / 1 1 9 6 遺伝子によってコードされるポリペプチドの融合物を含む、請求項 10 に記載の融合タン

パク質。

【請求項 16】

請求項 1 ～ 15 のいずれか一項に記載の融合タンパク質をコードする、ポリヌクレオチド。

【請求項 17】

請求項 1 ～ 15 のいずれか一項に記載の融合タンパク質を含む、病原性疾患の処置のための組成物。

【請求項 18】

病原性疾患が、ウイルス性、細菌性、真菌性または寄生性感染症である、請求項 17 に記載の組成物。

【請求項 19】

非ヒト対象において病原性疾患を伴う感染の処置のために免疫応答を誘導する方法であって、

- 請求項 1 ～ 15 のいずれか一項に記載の融合タンパク質を提供する工程、および

- 治療有効量の前記融合タンパク質を、対象に投与する工程

を含む、前記方法。

【請求項 20】

免疫応答が、細胞傷害性 T 細胞応答である、請求項 19 に記載の方法。